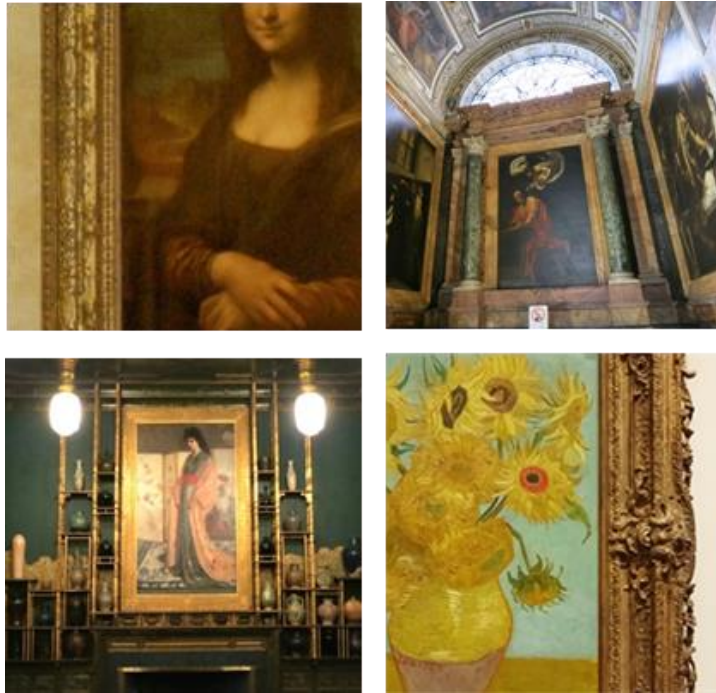


額縁からみる絵画

— レオナルド・ダ・ヴィンチからゴッホまで —



美術鑑賞をするとき、私たちは描かれた絵そのものを楽しむと同時に、額縁や壁面との調和も含めて額装された全体としてみています。絵画を額縁と一体となった美術品、かつ装飾品としてみると、絵画鑑賞の奥行きは宗教的な目的から、枠取りと建築、装飾との関係にまで広がります。

本講座では、中世の祭壇画からレオナルド・ダ・ヴィンチなどのルネサンスの巨匠、バロックからゴッホなどの印象派まで、画家自らがデザイン、制作した額縁も含めて代表的な名画を額縁とともに新たな視点から考えてみます。

講師 小笠原 尚司 (おがさはら ひさし)

額装家。1961年高崎生まれ。1980年代中頃よりフランス、パリを拠点に写真家として雑誌や広告、建築の分野で活躍。作品はフランス国立図書館、フランス現代美術コレクション、ヨーロッパ写真館等に公的コレクションとして保存。フランス滞在中に額装に魅せられ、1999年帰国後、都内に額装スクール Atelier YO、額縁・額装ショップ、ギャラリー sur-murs をオープンし、アートと壁面装飾、空間への可能性について額装をとおして提案。主な著書：『フレーム・イン・ザ・インテリア』トーソー出版、『額縁への視線』八坂書房、『額縁からみる絵画』八坂書房

開催概要

- 日時：2016年6月22日(水) 19:00~20:45 (18:30 開場)
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名(事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp) いずれかにて
① 講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。